

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生涯にわたり学習する基盤を培い、自らの個性を生かしながら主体的に課題を解決する力を育み、生徒の可能性を伸長する学校をめざす。

1 急速に変化する社会に対応できる確かな学力を育成し、思考力・判断力・表現力を高める機会を与えることで、個性を伸ばす教育の充実を図る。

2 自ら将来の夢と志を描き、自己の可能性を伸ばすとともに、自らの力で進路を実現し、地域や社会に貢献できる人材の育成をめざす。

3 生徒が安全で安心して高校生活を送れるよう、それぞれの思いや環境・状況の違いを理解し、自他の生命や権利を大切にする意識の醸成に努める。

2 中期的目標

生涯にわたり学習する基盤を培い、自身の可能性を自らの力で積極的に拓く総合学科高校として、自分の将来の進路を主体的に描き、常に高みをめざして自立・自走する人財を育成するとともに、持続可能な社会の創造に向けて共生・協働する人材を育成するため、「部活動の盛んな進学をめざす総合学科づくり」を目標に、以下の5点を学校の中期的目標とする。

1 思考力・判断力・表現力など確かな学力を育成するため、教員の授業力向上を図る。

（1）授業力向上委員会及び ICT 活用研究室会議を中心として、「授業の質の向上」と「学びの保障」に取り組むとともに、1人1台端末の活用による学習支援を進め、家庭学習時間の増加を図る。

（2）HR 教室の電子黒板機能付プロジェクタやアクティブラーニングルームを有効活用して、学校全体で ICT 機器を活用したアクティブラーニングやユニバーサルデザインの授業実践をすすめる。

（学校経営推進費 H30 「なぎさスマイルプロジェクト～授業に笑顔を～」 電子黒板機能付き超短焦点プロジェクタ 18 教室 3,402,000 円）

（3）授業アンケートを有効活用するとともに、研究授業や教員相互の授業観察等の活性化を図る。

※生徒向け学校教育自己診断「楽しくて、わかりやすい授業が多い」を毎年引き上げて、令和7年度には80%以上にする。

（H30 67.2%、R1 63.3%、R2 度63.5%、R3 63.2%、R4 72.8%）

2 夢や希望の実現に向かって主体的に学び努力するキャリアデザイン力を育成するため、さらなる進路指導の充実を図る。

（1）キャリアサポートルームを有効活用して、「10年後の自分」を考えさせる。

（2）アクティブラーニングルームを有効活用するとともに、「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」、LHR 等で系統的なキャリア教育の実践を進める。

（3）進学講習など授業外の取組みを組織的に行う体制を充実させ、生徒の希望する進路の実現をめざす。

※令和7年度に向けて進路希望実現率90%以上を維持する。（H30 88.5%、R1 93.1%、R2 92.1%、R3 96.0%、R4 97.4%）

※難関大学（関関同立・産近甲龍）の合格者を令和7年度には20名以上をめざす。（H30 5名、R1 4名、R2 6名、R3 4名、R4 6名）

3 基本的な生活習慣を確立させ、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を育成するため、生徒指導の徹底と生徒の自主性の伸長を図る。

（1）基本的な生活習慣やマナー指導、感染症の拡大防止について、各分掌が連携して取り組み、安全で安心できる学習環境づくりを行う。

（2）自分の考えを他者に伝え表現するコミュニケーション力を育成するため、HR や各種委員会・生徒会、学校行事のさらなる活性化を図る。

（3）「学びの場」としての部活動への参加を奨励して、目標に向かって努力することの大切さを学ばせる。

（4）地域連携の一層の充実を図り、自主的・積極的に社会に参画する意識を醸成する。

※年間遅刻者数を毎年減少させ、令和7年度には1000以下にする。（H30 1631、R1 1273、R2 1226、R3 1275、R4 1231）

※生徒向け学校教育自己診断「学校生活は充実している」の令和7年度に向けて肯定的評価90%以上を維持にする。

（H30 86.4、R1 86.4%、R2 86.2%、R3 84.8%、R4 89.9%）

※部活動加入率を毎年引き上げて、令和7年度には65%以上にする。（H30 55.2%、R1 60.1%、R2 61.7%、R3 58.7%、R4 60.8%）

4 多様な考え方や立場を理解し、他者と協力・協働する社会形成能力を育成するため、人権教育とともに「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。

（1）SNS 利用など今日的な課題に対応した人権教育を推進する。

（2）特別支援教育に関しては、高等学校支援教育力充実事業のサポート校としての取組みを充実させる。

（3）知的障がい生徒自立支援コース設置校として、生活看護実習室を活用して取り組んできたユニバーサルデザインの授業実践をあらゆる教育活動に広げていく。

※生徒向け学校教育自己診断「学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価を毎年引き上げて、令和7年度には85%以上にする。

（H30 82.9%、R1 79.6%、R2 75.9%、R3 75.4%、R4 78.4%）

5 力と熱意を備えた教員と学校組織づくりを進めるとともに、魅力ある総合学科として「部活動の盛んな進学をめざす総合学科」を地域に定着させていく。

（1）高大連携を進めるとともに、特色ある教育課程の編成を行うなど、カリキュラム・マネジメントに努める。

（2）中高連携をさらに進めるなど、広報活動の活性化を図る。

（3）全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化をはじめ、校務運営の効率化、部活動大阪モデルの具現化により教職員の時間外勤務の削減を図るなど、働き方改革に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
令和5年度学校教育自己診断 分析	〔第1回〕7月14日（金） ○スクールポリシー、学校経営計画、令和6年度使用教科書について ⇒承認
【生徒】 ＜全体＞ ・全体としては、多くの項目で概ね高い数値。	○分掌・学年の取組みについて ＜総務事務部＞ 学校説明会や個別相談会など学校広報の取組みについて ・他校との広報活動の差別化 ・「ひらつーパートナーライト」に加入し、SNS と合わせた情報発信の充実
・経年変化を見てもほぼ横ばい～微増の項目が目立つ。	＜教務部＞ ・フォーム作成ツールを用いた「欠席・遅刻連絡」の運用実施 ・教員の電話対応業務の削減（はたらき方改革） ・2限と3限の間の15分休みの導入
・昨年で肯定的評価の上昇率が高いものは 17：部活動に積極的に参加している（+4.3） 19：学校では命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い（+5.8）	

20：学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い（+11.3） →今年度より全校人権行事を再開したことが影響しているか <各学年> ・長年、懸案である家庭学習時間については年を追うごとに改善の傾向がみられる。 ・学年ごとに見た場合、全体として2年生の数値が低い傾向がある。 （各学年肯定的評価） 2：学校生活は充実している。 （1年/90.6、2年/85.4、3年/90.1） 3：この学校には他の学校にはない特色がある。（1年/92.0、2年/74.3、3年/81.2） 4：この学校に来てよかった。 （1年/77.3、2年/72.6、3年/83.8） 6：少人数・習熟度別選択授業は充実感（やりがい）がある。 （1年/81.1、2年/73.0、3年/82.2） 13：学校生活についての先生の指導は納得できる。（1年/69.1、2年/60.6、3年/69.6） 14：先生は悩みや相談ごとにはていねいに応じてくれる。 （1年/85.4、2年/76.1、3年/84.8） 17：部活動に積極的に参加している。 （1年/64.4、2年/54.4、3年/60.2） → 学習面、生活面、教員との関係性等の多くの項目で2年生の数値が低い 【保護者】 ・全体としては、多くの項目で概ね高い数値。 ・経年変化を見てもほぼ横ばい～微増の項目が目立つ。 ・昨年比で肯定的評価の上昇率が高いものは3：授業は楽しくてわかりやすいようだ。（+8.0） 4：生徒たちはしっかり授業をうけているようだ。（+8.5） 7：学校は1人1台端末を効果的に活用している。（+9.6） 16：学校は保護者が授業や行事を参観できる機会を設けている。（+13.0） →新型コロナの5類以降に伴い保護者の学校行事への参観を解禁したためか ・昨年比で肯定的評価の下落率が高いものは5：各教科からは必要な量の課題や宿題が与えられている。（-5.8） →学習面での期待の高まりを表して	<生徒指導部> ・身だしなみ指導、登校指導について現状報告 <進路指導部> ・17期生の進路実績 近畿大学、龍谷大学、摂南大学など進学実績として飛躍的な向上を遂げた。 ・3年生で講習形式の「深学」のスタート ・3年間の進路指導計画「なぎさ」の提示 <保健部> ・「防災避難訓練」「救命救急講習会及び心肺蘇生法実習」実施報告 <各学年>学年概要、行事等の取組みについて <20期生の取り組み> ・「なぎさ WakeUpCamp」（宿泊研修）の実施報告 ・Classi を用いた自学自習の習慣作り、家庭学習に関する意識付け <19期生の取り組み> ・「大学見学会」（京都産業大学、龍谷大学、同志社女子大学）の実施報告 <18期生の取り組み> ・進路指導状況報告 ○質疑応答・意見交換 ・スクールポリシーに関しては、生徒を主語として書いた方がよいのではないかと ・生徒の「授業以外での学習時間は1日平均1時間以上である」の数値は数年前に比べ増加傾向であるが、教員の「自宅学習を促す指導や工夫を行っている」の数値に対してまだまだ低い数値である。 ・1年生は「なぎさ WakeUpCamp」での意識付けの効果があつたと考えられる ・教員アンケートと生徒アンケートの数値の乖離している部分の確認が必要 ・知的探究系列を希望する生徒が増加傾向にある。 ・大学入学共通テストを利用する生徒はまだ少ないが、一般入試を見据えて進学をめざす生徒が年々増加傾向にある。 〔第2回〕11月24日（金） ○授業見学を終えて ・自立支援コースが在籍する授業を中心に見学できた。 ・総合学科に改編された2019年頃から登校時の雰囲気も良くなり、遅刻数の減少に比例して授業の受講態度が良くなっていることを実感できる状況であった。 ・教員の授業の様子についても電子黒板を有効活用し、視覚的な情報提示によって生徒理解を促す工夫が見られるものであった。 ○本年度の取り組みの中間報告について 〔学習指導室〕 ・自習室および自習スペースの活用の環境整備 〔生活指導室〕 ・1年生の遅刻数が非常に少なくなった、それに伴い、「学校は学びの場」である生活指導室の方針が授業の受講態度にも反映されていると考えられる。 ・挨拶をする習慣が付き始めているので、立ち居振る舞いを含め、挨拶の質を高めていく取組みを行う。 〔企画・広報室〕 ・10月29日（日）に行われた第2回学校説明会では約300組、約600名の中学生、保護者の参加があつた、本校への期待が高まってきていることを実感する学校説明会であった。 ・近隣校で日曜日に学校説明会を行っている高校はなく、参加しやすい日程調整を行ったことも要因の1つと考えられる。 ○質疑応答・意見交換 ・保護者からの意見の申し出はなし。 ・学校説明会での中学生の保護者、進路指導室などへの来客の方々から挨拶をしっかりとくれる生徒であるという印象をもっていただいている。 ・家庭学習時間の確保については、学習支援クラウドサービスを用いた課題配信などを用いて従来の宿題の形から少しずつ変化を付ける工夫をしている。
---	---

府立枚方なぎさ高等学校

いるか 11：学校は教育情報について公開・提供の努力をいっている。（-4.4） 15：学校は家庭への連絡を適切に行っている。（-3.2） →情報提供の在り方について再確認の必要あり 【教職員】 ・全体としては、多くの項目で概ね高い数値。 ・昨年比で肯定的評価の上昇率が高いものは 3：生徒が学校生活に満足感を得られるように配慮している。（+3.6） 6：本校の少人数・習熟度別選択授業は生徒の理解度の向上に効果をあげている。（+7.0） 7：担当する授業では丁寧でわかりやすい板書や説明を常に心がけている。（+4.7） 16：本校は部活動の活性化について工夫している。（+11.0） 18：本校は命の大切さや社会のルールについて学ばせている。（+5.9） 19：本校は人権教育について適切な指導を行っている。（+7.4） ・昨年比で肯定的評価の下落率が高いものは 4：本校の教職員と生徒との間には信頼関係がある（-5.1） 13：生徒の悩みや相談にはていねいに応じている（-4.0） →生徒との関係性の構築に課題を感じている教員が一定数いるか 10：担当する授業で必要な量の宿題を課している（-8.5） ・教員と生徒の意識の乖離のみられる項目については詳細な分析の必要がある。	・クラブ活動と両立は、部活動をしている生徒の方が家庭学習の時間が長いデータがあり、定期考査に関しても成績上位層はクラブ員が多い。時間の使い方、学校生活に向き合う姿勢などクラブ活動の中で培われる意識が大きく関与していると考えられる。 ・教員の働き方改革については、毎週水曜日の一斉退庁日を設定、17 時以降の留守電対応の導入、始業前の欠席・遅刻連絡などできる部分から業務の効率化をはかっている状況である。 ・18 期生の進路状況としては、森ノ宮医療大学、関西医科大学、佛教大学(教育学部)、大阪府職員(実習教員)など近年合格が出ていなかった進路先に合格するなど、自らの希望進路に直結した進路の自己実現が顕著である。 ・進路指導状況について、ベネッセの実力診断テストの結果では、本校に入学してきた生徒の底上げは他校ではないほどしっかりできている。成績上位層をさらに伸ばすことが今後の課題である。 〔第3回〕3月1日（金） ○教員の授業、その他の教育活動に係る保護者からの意見の調査審議に関する事項の提出なし。 ○. 令和5年度学校教育自己診断について 事務局より資料について説明 ・「生徒指導」について、教員・保護者と生徒との間に意識の差がある。 ○スクール・ポリシーについて ・グラデュエーション・ポリシーの文面の書きぶりに違和感を感じる(府の捉え方) ⇒承認 ○令和6年度学校経営計画について ・校長より「令和5年度 学校経営計画」について説明 ・校長より「令和6年度 学校経営計画」について説明 ⇒承認 ○報告 ・学習指導室より：今年度の進路状況、1,2年生の学力の現状についての説明 ・学年経営室より：各室の取り組みについて説明 ・生活指導室より（保健部）：スクールカウンセラーの利用が増加している。 ・特別活動部より：行事が充実している。 ・.企画・広報室より：中学校説明会等を工夫し、志願者数増加に繋がった。 ○質疑応答・意見交換 委員)発達障がいの生徒への対応は？ 事務局)教員で情報共有し、必要に応じて、個別対応している。 委員)近隣でA高校やB高校等学力の均衡する学校があるが、「なぎさ」なら学びたいという生徒が増えていると感じている。 委員)8年間関わっているが、生徒が大きく変わった。卒業式も素晴らしかった。 現在の希望志願者数等を見ても、これで一安心だと感じるが、教えるということは、取り返しがきかない場合もある。今の状況に慢心せず頑張ってほしい。 委員)生徒指導体制について新たなフェーズに変わってきていると感じる。やらないと痛い目を見るではなくやれば楽しいというフェーズに入っていると感じる。 委員)学力層の変化が明らかに見て取れる。その点も踏まえ、合理的説明のできない不合理な校則の見直しをすべきである。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
授業力の向上	(1)「授業の質の向上」と「学びの保障」、家庭学習時間の増加	(1)ア・授業力向上委員会及び ICT 活用研究室会議を計画的に開催し、「授業の質の向上」と「学びの保障」に取り組むとともに、アクティブラーニングやユニバーサルデザインについての研究を進める。 ・自主学習スタイルのモデル化を進め、学びのサイクルのイメージ形成を行う。 ・1人1台端末の活用による学習支援を計画的に行い、学びの定着とともに家庭学	(1)ア・「  いろいろ工夫されている授業が多い」前年度比2.8%増加 [80.2%] ・「  授業以外での学習時間は1日1時間以上である」前年度比2.8%増加 [33.8%] イ・「  楽しくて、わかりやすい授業が多い」前年度比2.8%増加 [72.8%]	 は生徒向け学校教育自己診断 (1)ア・「  授業の工夫」79.1% (1.1%減) (△) ・「  授業以外での学習時間は1日1時間以上である」35.7% (1.9%増) (○) 2%増にはわずか 0.1 ポイント届かなかったが、勉強会、講習会等の参加者は大幅増となった。

府立枚方なぎさ高等学校				
	(2) 学校経営推進費を活用して設置した HR 教室の電子黒板機能付プロジェクタの活用 (3) 研究授業や教員同士の授業観察の活性化	イ 習時間の増加を図る。 ・授業力向上に向けた校内研修を企画し、教員間で「めざす授業」の共有化を図るとともに、「楽しくわかりやすい授業」を実践して生徒の学習習慣の定着を図る。 ・授業力向上を目的とした教職員研修を実施する。 (2)モデル授業者や各教科代表者による ICT 機器を活用した研究授業と研究協議を実践する。 (3) ア 授業アンケートの振り返りシートを全教員が作成する。 イ 研究授業を学校全体で行うとともに、授業観察シートを全教員が作成する。 ウ 近隣小・中学校との授業交流を活性化する。 ・「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」、学校設定教科・科目などを活用した実践を模索する。	(2) 前年度の回数以上の ICT 機器活用に関する教職員研修を実施する。 [3 回] (3) ア 授業アンケートの学校全体の平均値前年度より上昇 [3. 42] イ ICT 機器を活用した研究授業 2 回以上 [2 回] ウ 近隣小・中学校との授業交流参加人数の R 1 年度以上の増加 [R 1 30 人] ※感染症拡大防止のため R 2 ～R 4 は実施していない。	ポイント幅は増加したが、肯定的数値そのものはまだ低い段階にある。 イ ・「楽しくてわかりやすい授業」74. 3% (1. 5 ㊦増) (○) 各種委員会や校内研修を実施し、肯定的回答率を増加できた。 ・授業力向上委員会の企画により授業力向上を目的とした教職員研修を研 2 回実施した。(○) (2)ICT 機器の活用及びオンライン授業にかかる研修・協議等 3 回 (○) ・1 人 1 台端末の積極的な活用に関する研修、授業に関する研修、研究授業を実施した。 ・多くの授業で ICT 機器が活用されており、授業の「なぎさスタンダード」が形成されつつある。 (3) ア 授業アンケート学校全体の平均値は上昇 3. 45 (○) イ ICT 機器を活用した研究授業 2 回 (○) ウ 小学校と地域創造系列における授業交流を復活させた。32 人 (◎) ・他にも地域創造系列における「総合的な探究の時間」の取組みとして、班に分かれ、各事業所等との連携・協力、担当者からの指導・助言のもと、探究活動を実践した。
キャリアデザイン力育成のための進路指導の充実	(1) アクティブラーニングルームやキャリアサポートルームを有効活用したキャリア教育の実践 (2) 系統的なキャリア教育の実践 (3) 進学講習の充実による希望する進路の実現	(1) ア 進学説明会や進路面談、模擬面接等をアクティブラーニングルーム及びキャリアサポートルームで開催するなど、進路指導や HR で有効に活用する。 イ 3 年間トータルの系統的なキャリア教育フロー図の策定 (2) ア 「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」、LHR 等を通じて、進路実現に向けた学習活動を充実させる。 ・進路決定までの生徒支援の仕組みとして、進路選択や働くことの意味、将来を見据えた科目選択などについて考え、自らの今と将来を凝視していく機会をつくる。 イ 連携先の大学を開拓するとともに、アカデミックインターンシップを実施する。 ・大学や専門学校等の職員を招聘し、高校卒業後のより高いステージでの「学び」をイメージさせる。 ウ 英検やワープロ検定等、各種検定の受験、資格取得の促進 エ 学習支援クラウドサービスの活用及び入学して早い時期の宿泊研修の導入により、進路実現に向けた学習の自走化を進め、「授業外学習時間 0」からの脱却を図る (3) ア 学校設定教科・科目「軌跡」及び「深学」を工夫・改善するとともに、組織的な進学講習の体制づくりを進める。 イ 一つ上の高みをめざす進路選定を勧奨しつつ、生徒の進路希望の実現を支援する。	(1) アイ ・進路希望実現率の前年度数値を維持 [97. 4%] (2) ア 「進路実現に関する指導は適切に行われている」前年度数値を維持 [89. 4%] イ 大学との連携活動回数の前年度比 5 ㊦増加 [78 回] ※感染症拡大防止のため R 2 ～R 4 は実施していない。 ウ 各種検定、資格取得者数の昨年度以上の増加 [70 名] エ 「授業以外での学習時間は 1 日約 1 時間以上である」を前年度比 2 ㊦増加 [33. 8%] (3) ア 「学校は授業以外でも学習する機会（講習会・検定など）を提供している」前年度比 2 ㊦増加 [79. 3%] イ 難関大学（関関同立・産近佛龍）の合格の前年度比 20%増加 [6 名]	(1) アイ 進路希望実現率は 98. 1% (0. 7 ㊦増) (○) ・3 年間の進路指導計画「なぎさ」の提示 ・放課後の積極的な自主的学習の習慣化を狙いとして、キャリアサポートルーム、会議室、図書室を自習室として整備・開放した。 ・「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」などを活用して、学年進行で自らの進路、職業観、生き方に対する考えを深めさせた。 (2) ア 「進路実現に関する指導は適切に行われている」89. 7% (0. 3 ㊦増) (○) イ 大学との連携活動回数 95 回 (◎) ウ 各種検定、資格取得者数 63 名 (×) エ 「授業以外での学習時間は 1 日約 1 時間以上である」[35. 7%](○) ・「なぎさ WakeUpCamp」(宿泊研修)の実施や Classi を用いた自学自習の習慣作りを進め、家庭学習に関する意識が高まった。「勉強会」の参加者増 (3) ア 「学校は授業以外でも学習する機会（講習会・検定など）を提供している」76. 9% (2. 4 ㊦減) (△) イ 難関大学（関関同立・産近佛龍）の合格者 3 名 (×) ・家庭学習時間は、以前に比べると増加傾向ではあるが、進路実現に向けて、

府立枚方なぎさ高等学校				
				「学びの自走化」をさらに進める必要がある。
社会人基礎力育成のための生徒指導の徹底と生徒の自主性の伸長	(1) 基本的な生活習慣の確立とマナー指導の徹底及び安心・安全な学校環境づくり	(1) ア 感染症拡大防止対策及びその指導、遅刻指導や身だしなみ指導を粘り強く行い、生徒が安心・安全な学校生活を過ごせるよう、基本的な生活習慣を定着させる。 イ 学年連携会議等で、生徒指導や行事活動などの学年間の調整を図る。	(1) ア ・年間遅刻者数の前年度比 3 % 以上減少 [1231 回] ・「  先生は悩みや相談ごとには丁寧に応じてくれる」前年度比 2 割増加 [79.8%] イ 「  学校生活についての先生の指導は納得できる」前年度比 2 割増加 [66.5%]	(1) ア ・年間遅刻者数は 1333 回 (△) 自己の不注意による遅刻は大幅減 ・「  先生は悩みや相談ごとには丁寧に応じてくれる」82.0% (2.2 割増) (○) イ 「  学校生活についての先生の指導は納得できる」66.3% (0.2 割減) (△)
	(2) リーダーの養成及び HR や委員会・生徒会、学校行事の更なる活性化	(2) リーダー研修を実施し、生徒会や各種委員会が中心となって、体育祭や文化祭などの行事活動を活性化させる。	(2) ・「  学校行事や HR 活動には皆が楽しく参加している」前年度比 2 割増加 [87.8%] ・生徒会及び部活動員を対象としたリーダー研修を実施する。	(2) ・「  学校行事や HR 活動には皆が楽しく参加している」87.0% (0.8 割減) (△) ・生徒会及び部活動員を運営委員とした行事活動を維持した。また、部活動のキャプテン会議の定期開催や学年のリーダー研修を実施した。(○)
	(3) 「学びの場」としての部活動の活性化	(3) 部活動紹介や体験入部の方法、合同部活動の在り方等を工夫することにより、入部率を上げ、部活動の活性化を図る。	(3) 部活動加入率の前年度比 2 割増加 [60.8%]	(3) 部活動加入率は 62.2% (1.4 割増) (○) 指標 に 0.6 割届かなかったが、加入率は前年度より増加。また、クラブには入部していないが、生徒会役員は 20 名を超えるなど自主活動に多くの生徒が参加した。
	(4) 地域連携のさらなる充実	(4) 防災訓練や土曜講座など、保護者や近隣の小中学校、磯島地区コミュニティ協議会とのさらなる連携をすすめる。	(4) 地域活動参加回数の R 1 年度比 5 割増加 [R 1 30 件] ※感染症拡大防止のため R 2 ～R 4 は実施していない。	(4) 地域創造系列における「総合的な探究の時間」の取組みとして、各事業所等との連携、生徒会や部活動におけるボランティア活動や各種イベントへの参加・協力など 40 件を超え、コロナ前以上に地域交流活動に参加することができた。(◎)
社会人形成能力を育成するための人権教育や特別支援教育の充実	(1) 高校 3 年間を通じた人権教育の推進	(1) ア ・入学年次の「産業社会と人間」を同和教育・人権教育の観点から組み立てるなど、SNS 等の今日的課題にも対応した 3 年間トータルの人権教育を行う。 ・3 か年を通じた同和教育・人権教育がより系統的に実施できるよう、人権をテーマとした教職員研修を計画的に実施する。 イ アンケート等により把握したいじめなどの事象に迅速に対応する。	(1) ア 「  学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い」前年度比 2 割増加 [78.4%] イ 「  学校は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」前年度比 2 割増加 [81.3%]	(1) ア 「  人権の大切さを学ぶ機会」89.7% (11.3 割増) (◎) イ 「  学校は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」83.7% (2.4 割増) (◎) ・アンケート等により把握したいじめなどの事象に迅速にチーム対応ができた。
	(2) 高等学校支援教育力充実事業のサポート校としての取組みの充実	(2) 生活看護実習室を活用して、インクルーシブ教育をさらに進めるとともに、支援教育サポート校としての取組みを充実させる。	(2) 訪問・来校相談、研修・講演回数 の前年度比 5 割増加 [訪問・来校 (電話) 相談 27 件、研修・講演 6 回]	(2) 支援教育サポート校としての相談等が増加した。訪問・来校 (電話) 相談 28 件、研修・講演 3 回 (○) 支援教育サポート校事業ではないが、その他の研修・講演、訪問・来校等 5 件
	(3) ユニバーサルデザインの授業実践の活性化	(3) ・生活看護実習室を活用して、ユニバーサルデザインの授業実践に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育活動をさらに推進する。 ・授業力向上と授業改善を目的とした教職員研修を実施する。	(3) ・「  この学校の生徒たちの関係はとてもよい」前年度比 2 割増加 [84.1%]	(3)「  この学校の生徒たちの関係はとてもよい」84.2% (0.1 割増) (○) 肯定的回答率が前年度より上昇し、84% 台を維持できた。 ・人権教育担当と授業力向上委員会が協力してユニバーサルデザインの授業実践に関する教職員研修を実施した。(○)

府立枚方なぎさ高等学校				
魅力ある総合学科づくり	(1) 特色ある教育課程の編成を行うなど、カリキュラム・マネジメントに力を入れる。	(1) ア ・既成の再編 PT を転成させた「SNG s (持続可能な枚方なぎさの目標) 会議」や教職員研修で、新カリキュラムにおける課題を整理し、引き続き研究を進め、5 つの系列の特長をつくり出す。 ・「観点別学習の評価」に関する教職員研修を企画し、工夫と充実を図る。 ・デジタル採点システムの活用に向けて校内整備を進める。 イ 新学習指導要領の年次進行に伴い、さらなる取組みに向けた議論を進める。	(1) アイ 授業力向上委員会を中心に課題を整理し、「観点別学習の評価」に特化した教職員研修を 2 回実施する。 「  この学校には他の学校にない特色がある」前年度比 2 割増加 [76.3%]	(1) アイ「観点別学習の評価」に特化した教職員研修は実施できていないが、「SNG s 会議」を定期開催 (9 回) し、府教育庁ともコラボして学校の方向性にかかわる課題について議論した。(3 回) (◎) 「  この学校には他の学校にない特色がある」79.1% (2.8 割増) (◎) デジタル採点システムの活用に向けての教職員研修を 2 回実施し、校内整備を進めた。
	(2) 「魅力ある総合学科」の取組みを情報発信するなど、広報活動に力を入れる。	(2) ア 中学校訪問など中学校との連携を活発に行うとともに、学校説明会の実施形態と内容、開催時期、回数を工夫し、昨年度に引き続き、集合型説明会及びオンライン説明会を開催するとともに、新規の取組みとして個別相談会や出前説明会などを企画・実施する。 イ PTA 等と協力して、保護者に学校行事に積極的に参加してもらうなど、保護者との信頼・協力関係をさらに進める。 ウ 学校運営協議会の進行について、学校課題解決のための取組みの提案・検証を行う討議型に転換し、協議内容を学校内外に発信する。	(2) ア 集合型及びオンライン学校説明会出前説明会と個別相談会を併せて前年度数値を維持 [20 回] ・令和 3 年度入試以降の志願倍率 1.1 倍以上を維持する [(1.10 倍)] イ 保護者向け学校教育自己診断の提出率の向上 [(40.1%)] ウ 生徒向け学校教育自己診断「学校は教育情報について公開・提供の努力をしている」前年度比 2 割増加 [(89.1%)]	(2) ア ・校内外における学校説明会及び個別相談会を 4 月から平均月一回以上週休日に実施し、加えてオンラインによる説明会や個別相談会を実施した。27 回 (◎) ・令和 5 年度入試の志願倍率 (1.03 倍) (△) 目標に 0.7 割届かなかったが、多くの府立学校が定員割れをする現状において、1 倍を超えた。 イ 保護者向け学校教育自己診断の提出率 28.4% (割減) (△) ウ 「  学校は教育情報について公開・提供の努力をしている」84.4% (4.4 割減) (△)
	(3) 全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化等により教職員の時間外勤務の削減を図る。	(3) 校務運営の効率化や業務分担の工夫により教職員の負担軽減を進めるとともに、全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化や部活動大阪モデルの具現化により教職員の時間外勤務の削減をめざす。	(3) 教職員の一人当たり時間外勤務時間数の前年度比 2 h 削減 [約 35 時間]	(3) 教職員の一人当たり時間外勤務時間数は約 32 時間 (◎) 教員の働き方改革については、毎週水曜日に一斉退庁日を設定、17 時以降の留守電対応導入、職員会議等でのペーパーレス化等、10 項目についての対応を開始し、昨年比 3 時間の減少となっており、教職員の意識が進んだと考えられる。引き続き時間外勤務の削減に取り組んでいく。